

REPORT

国内人形劇フェスティバル

この夏も日本各地で人形劇フェスティバルが開催されました。愛知人形劇センターでは、長野県飯田市、静岡県磐田市、大阪府吹田市で行われた3つのフェスを視察。活気にあふれた様子をお伝えします！

いいだ人形劇フェスティバルは、今年もさらに
国際フェスティバルとしてのプログラムが充実。
主に海外からの作品を中心に印象に残った
2作品の観劇報告を。



いいだ人形劇フェスタ2016

◎長野県飯田市

飯田市・仏シャルルヴィル・メジエール市交流事業

ヨウカイ劇場「Volatil(es)」(演出:Violaine FIMBEL)

「ヨウカイ劇場」の名の由来は日本語の「妖怪」。彼らが表現したい肉体を離れた「精神」の世界が「妖怪」という存在と近いと感じたからだそうです。タイトルの「Volatile」は「薄い、気化する、消えてなくなる」という意味。父親が姿を消し、残された母親が正気を失いやがて人間から鳥になっていく様をグロテスクに描いていきます。うすぽんやりとした照明の中でぬらぬらと蠢くような美術は、肩から、首から肉が裏返って露呈した血管がまるで木のようになった人間が、まさか本当にそこにいるのではと思わせます。人を人形のように表現するという、人形に命を吹



き込む発想とは真逆の世界。人形劇を見慣れたフェスティバルの観客も、終演後の拍手のタイミングをつかめず茫然。



よってよってパペットカーニバル IN 吹田

◎大阪府吹田市



8月19日・20日には「よってよってバベットカーニバル IN 吹田」に上演参加してきました。かつてメインアターで隔年開催されていた「吹田人形劇コンクール」がなくなり、「アマチュア人形劇を考える会」によって2010年8月からプロ・アマ混演による人形劇フェスをメインアターで開催。2011年からは名称を現在のものとし、2010年のフェスを第1回と数えて毎年開催。今年で7回目です。主催は（公財）吹田市文化振興事業団、共催・企画・制作が「人形劇人の会一大阪」。この会は「考える会」を前身として、大阪を中心に阪神間の人形劇の発展と向上を目指し、人形劇をする人が楽しく豊かになるための親睦と交流を図ることを目的に結成されました。入場料は1日券大人1500円、子ども500円、2日通し券2500円。2日間の延べ入場者数は1482人（うち子ども303）。出演劇団数は36、アマ6。メインアターの小ホールと集客室を交互に使って、全部の演目を見られるようになっています。2日目終演後の「Let's しゃべり！ 人形劇」は、上演作品を観た後に人形劇について語り合う場として定着していて、熱い議論が交わされました。

愛知人形劇センター副理事長・広報部長
たかはしいちげん(人形劇団わたぐも)

行ってきました!



トム・リー(アメリカ)&五代目西川古柳
「Shank's Mare膝栗毛」

伝統人形芝居のひとつ、八王子車人形の五代目西川古柳氏に師事したトム・リー氏が人形製作まで手がけ、ニューヨークでの公演も成功させたという作品。『Shank's Mare』は「自分の足で」という口語。『勝栗毛』の訳としても使われています。 死期を悟った天文学者が弟子に遺志を伝えるための旅に出ていたという物語。人形は伝統的な車人形の構造だが、本来は木である車輪がキャスターでできていたり、人形を車から離れて人間の役者と殺陣を演じたりします。さらに舞台上のミニチュアセットをカメラで撮影したライブ映像がスクリーンに映し出される背景



で、重いテーマでありつつ疾走感のある展開。伝統への尊敬と新しいものへの挑戦が生んだ作品でした。キャストでできた車を「それも新しい車人形の形」と西川氏が言うように、作品のテーマである「伝承」への情熱を感じることができました。

西へ東へ!!

他にも、ポーランド・日本共同プロジェクト『ポーランドの四季』や、イスラエル、トレイン・シアター『レインバード／Rain Bird-A Paper Tale』も観賞。日本での上演を意識した演出と工夫で、日本の観客にもなじみやすぐ分かりやすい。客席からは「わぁ」とか「おお」とか声が漏れていました。

海外作品の場合、物語が分かりやすい方がいいのか、現地の作品の空気そのままを楽しみたいのか、観る方も上演する方も悩むのでは、と思います。悩むのが嫌じゃないわたしの場合、多少分かりにくくても後から語るネタが増えておもしろいな、と思ったりします。

愛知人形劇センター理事 弓達聡子



人形劇フェスティバル in いわた

●静岡県磐田市

7月16日・17日に催された「人形劇フェスティバル in いわた」に上演参加してきました。静岡県磐田市の磐田市文化振興センター全館を使って行われるフェスティバルです。2002年から始まり、今年で第16回（最初の年のみ2回開催）。主催は地元人形劇団中心の実行委員会。磐田文化振興会が共催で、会館使用料とポスター・チラシ代を協力していますが、運営費用は1日券500円の入場料でまかなっています。今年の観客数は2日で延べ715人、出演劇団数18（プロ3、アマ15）、スタッフ劇団6。人形劇ばかりでなく、磐田市民文化会館ホールでの地元劇団による演劇の上演や手作りワークショップ、むかしあそび、絵本読み聞かせなどもあって、家族で一日楽しめるような手作り感にあふれたアットホームなフェスティバルです。

愛知人形劇センター副理事長・広報部長
たかはしいちげん(人形劇団わたぐも)



特定非営利活動法人

愛知人形劇センター

〒460-8551 名古屋市中区丸の内3-22-21

損保ジャパン日本興亜名古屋ビル8F

TEL 052-212-7229 FAX 052-212-7309

<http://aichi-puppet.net/> MAIL:mail@aichi-puppet.net

愛知人形劇センター
ひまわりホール情報誌

発行人：木村繁
 編集：木村繁

編集人：たかはし いちけん
デザイン：江利山 浩二 (KINGS ROAD)
編集：小島 祐未子 (家鴨の編集舎)

©愛知人形劇センター ※本誌記事・写真・レイアウトの転載を禁じます。



Aichi
Puppetry
Center

あぷ

ひまわりホールから
発信する
シアター情報誌

ひまわりホールから
発信する
シアター情報誌

洋の東西、双方のクラシックが 出会って生まれた閃光

「人類と人形の旅」human with puppet 記念製作
文楽人形オペラ『おさん 伊八〜睦月連理玉椿〜』（台本・演出：齋藤敏明）